

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 なごやか2)

| | | | |
|---------|------------------|-------|-----------------|
| 事業所番号 | 0673200333 | | |
| 法人名 | 有限会社 ほほえみの里 | | |
| 事業所名 | グループホーム なごやか | | |
| 所在地 | 山形県遊佐町江地字中屋敷田3-7 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 21 年 8 月 5 日 | 開設年月日 | 平成 16 年 6 月 1 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は地域のほぼ中央に位置し、隣あった畑から、野菜の差し入れがあったり、散歩時には、ご近所の庭先で一杯のお茶をご馳走になったりと、常に地域と密着した、心豊かな暮らしが送られるようになっている。食事メニューもシェフである職員が心を込めたおいしい料理を提供してくれ、皆さんに喜ばれている。代表が看護師である事と施設の隣に自宅がある事により、利用者にとっては、精神面や健康面でも安心して生活できる要因となっている。日中の暮らしは居室に閉じこもる事無く、リビングでみんなで仲良く過ごしており、家庭生活のようにゆったり、楽しい雰囲気である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------|---------|------------------|
| 評価機関名 | 協同組合オール・イン・ワン | | |
| 所在地 | 山形市桜町四丁目3番10号 | | |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 9 月 8 日 | 評価結果決定日 | 平成 21 年 10 月 8 日 |

【外部評価で確認した事業所のすぐれている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員は目の届く所に掲げた理念を常に反復しながら理念に基づき介護サービスを提供し、地域の中で安心のある生活が送れるように支援している。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の美容院・かかりつけ医・スーパー等、今まで通りの行きなれた場所への生活が続けられるように支援している。又部落の一員として、行事への参加や子供神輿の来訪も恒例となり、楽しみにしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ボランティアや施設見学へ来られた方々に認知症の理解についてお話させて貰っているが、こちらからの呼びかけでより理解して貰えるように努力したい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者及びその家族様・地域住民の代表や、役場、包括支援センター等の参加を頂き情報交換や意見交換をさせて頂いている。目標の2ヶ月一回の開催に向けて努力したい。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 利用者の変化の報告をはじめとして、運営推進会議の参加等常に連絡を密に取り合い、いい関係を築いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | 施設内・外の研修会において、拘束をしないケアを学び合い、実践においては、職員間の見守りを徹底し、安全を確保しながら、日々の生活を支援している。利用者の外出傾向の把握により、玄関には、風鈴等の音の出る工夫をさせて頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内・外の研修会において、虐待防止の研修を受け、認知症の理解のもとに、色々な虐待のある事を意識して、職員全員が防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度の理解の為の研修は受けているが、実際に関わりあった事はまだ無い。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用に前の段階で契約書・重要事項説明書を丁寧に利用者や家族に説明しており、不安なく利用できるように努めている。又利用料金等の変更時には、随時文書で連絡し、納得をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者・家族の要望や、希望は普段から、職員等に自由に話せる雰囲気づくりをしており、又、運営推進会議でも、意見をいただけるようになっている。 | | |
| 11 | | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見や、提案は随時気付いた時に話せるように配慮されており、速やかに検討し、反映できるようになっている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日常の勤務状況から個々の努力に対して、きちんと評価してもらえる。又資格取得にも積極的に応援し、挑戦できるように配慮がある。 | | |
| 13 | (7) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修の参加を職員間で偏る事のないように配慮されており、受講後は必ず伝達研修を行い復命書の回覧で、全職員が共有できるように勤めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | (8) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | グループホーム協会の研修や地域で開催される入所部会等に定期的に参加し、情報交換を行い、スキルアップにつなげている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用希望時の面接については、初対面でも、心を開いていただけるように心がけて何うようにしている。施設見学時も、不安のないようにゆっくりお話を聴くようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談を受けた時点で電話でも、来所でも、本人、家族との信頼関係を作るように、充分にお話を聴くようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の気持ちと家族の気持ちを踏まえて、今何が必要か見極め、担当ケアマネとの話し合いを持ち、本人の意向にそったサービス利用に努める。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々一緒に過ごす事により、方言・ことわざ・昔の懐かしい唄等を教えていただいたり、楽しいいい関係が出来ている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 友人や家族の面会時には、自室でゆっくり話し合いの時間を持って貰い、時には、一緒に外出も楽しんで貰うように支援している。電話や写真いり葉書などで、近況報告をさせていただいたりし、家族との絆を大切にしている。 | | |
| 20 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力により、行き着けの理・美容院への外出や、友人、知人等が気軽に訪問できる雰囲気づくりの支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一つの家族のように、いつも一緒に居る事で、いい雰囲気でのびのび過ごしている。意思疎通が取れない利用者でも、職員の声掛けで寄り添い、やさしく面倒を見てくれている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院等により、やむ得ず退所となった場合でも、その後のサービスについて、家族共々、相談に応じ、家族の思いを支えていく支援をしており、又他施設への入所になった場合でも、面会や手紙等をつながりを大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の暮らしの中で言葉や表情等から思いを汲み取るようにし、又家族や本人の意思が確認できる場合は要望を聞き取り、プランに反映させるように、支援している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 提供された情報のみでなく、面会時など、機会がある毎に、家族や友人達から話を伺うようにして、その人らしさを知るように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のバイタル測定や、職員間の申し送り等で本人の現状を把握し、できる事への支援につなげるように努力している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族からの要望を伺い、プランを作成し、6ヶ月毎に評価会議を担当職員を主に開催し、全職員が意見を交換しあい次のプランを作成している。利用者の状態変化によっては、なるべく早くプランの見直しをするようにしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の経過記録簿に毎日の身体状況、職員の気付き等を記入し、情報を共有化し、又職員間の申し送りノートを活用により、個々の変化を見逃さないように支援し、大きな変化には、プランの見直しにつなげていくようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p> | | | |
| 29 | | <p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>民謡大会等公民館主催の行事への参加等希望に応じて楽しんで貰っている。地元の三味線ボランティアの訪問も定例化し、楽しみにされている。</p> | | |
| 30 | (11) | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>受診付き添いについては、家族の都合のつかない場合が多く、職員対応となっている。医師との関係はうまくいっている。又家族が付き添いをして下さる場合には、手紙等で、情報提供をし、状態をお知らせしている。</p> | | |
| 31 | | <p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>代表が看護師であり、常に利用者の健康管理には、注意しており夜間においても、緊急時の対応にも、的確に対処し、医療機関との連携をとって貰っている。</p> | | |
| 32 | | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>医療機関からの入院時の情報を蜜にし、家族との話し合いも大切にして、病状安定の場合には、退院後の受け入れが可能な限り対応するように、心がけている。</p> | | |
| 33 | (12) | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>入所時に、本人家族の希望をお聞きし、又状態の変化により、その都度意向を確かめるようにしており、家族、本人が望めば職員との信頼関係のもとに、医療機関と協力しあい、終末までの利用は可能であるが、医師の診断や、治療方針に基づき一番いい方法について、充分はなしあうようにしている。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や、事故発生に対するマニュアルが出来ている。事故発生時には、その都度代表より、指導を受け学習会が全職員対象に行われている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 緊急連絡網の伝達訓練や火災避難訓練など、消防署の協力を受けて実施している。又近隣の方々にも周知してもらい安全確保が得られるようになっている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「個人情報保護条例」「守秘義務」の重要性を全職員が共有し意識づけている。トイレ誘導のさり気ない言葉かけや、きちんと名前を呼び合うなど人格を尊重した支援をしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が理解出来る様な言葉掛けであせらずに意思表示を待つようになっている。意思疎通の出来ない利用者には、表情や動作から、嫌がる事なども含めて汲み取るようになっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れは大筋できまっているが体調や、その日の本人の思いに合わせて個別的に支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣の洋服選びから、化粧品・乳液等の好みや、行きつけの美容院でのカットや毛染め等その人らしいお洒落を楽しむ支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 配膳や、皿拭き等の手伝いを貰い職員一緒にテーブルで楽しく食事をしている。利用者の嗜好について職員が把握しており、どうしても食べられないメニューには、代替品を提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量チェック表を記入し、不足がちな利用者には、個別的に声掛けや、介助で摂取しやすい工夫をして提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の歯磨きを実施し、清潔保持に努めている。出来ない方には、手を添えて支援している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェック表の活用で本人の排泄リズムを知り、さり気ない見守り対応し、尿意のない方への対応を含めて、時間によるトイレ誘導を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘がちな人が多く、医師に相談し、薬を処方されている方もいるが、排泄チェック表により便秘の方には、個別的に牛乳やバナナ等を臨機応変に対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 本人希望や、体調等により、随時対応している。入浴介助時も職員との大事なコミュニケーションタイムとなり、一緒に唄を歌ったり、入浴時間が楽しいひと時となっている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼寝時間を含め、それぞれ個別対応し、睡眠時間はゆっくり取れるように支援している。不眠の訴えのある時は夜勤者がリビングで寄り添い話を聴いたりして、安心できるように対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人の薬情報を職員が認識し、症状変化の場合には、家族や、主治医に連絡し、受診や、処方頂き、新しい情報を申し送りノートに記載し、確認しあう。又服薬介助時には、お互いに声掛けしあい、間違いのないように対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎日の皿拭きや洗濯物干し、たたみ等、張り合いを持って手伝い頂いている。レクリエーションでは、好きな歌をたくさん歌ったり、おやつ楽しみなど一日一日が楽しく過ごせるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 施設周辺の散歩や、代表宅への立ち寄りでお茶をご馳走になったりして喜ばれている。又家族への協力を得て自宅へ外出出来るように積極的に取り組んでいる。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の意思で所持金を持たせて貰っている利用者は少ないが、職員からは、お金を持つ事の喜びや、大切さを説明して、小額のお金の管理が出来、買い物同伴時に自分で支払いが出来る方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ダイヤルしてやる事で使用できる利用者には、いつでも使えるようになっている。希望によっては、電話や、手紙を代行してやる事もある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一日の大部分を過ごすリビングには、季節の写真や、利用者による、ジグソーパズルの額絵等で季節感や落ち着きがあり、居心地の良い空間となっている。照明や風の入り方等利用者の声に耳を傾け対応している。トイレ表示と共に「使用中」の表示板の活用でゆっくり使用できるようにしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室へお互いに訪問しあったり、リビングでのソファで気の合った同士隣り合ってくつろいでいる。独りぼっちになる事のないように目配りし支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使い慣れた物を持参してもらっているが、家具の持ち込みをされる家族は少なく、施設の物を提供している場合もある。カレンダーや誕生日カード等壁面飾りでほんにんが落ち着かれるように工夫している。面会時に家族と一緒に写真等も喜ばれて飾らせて貰っている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 必要とされる場所には、手すりが設置され、洗面台使用時には、利用者によって、いす等を置いて安全に出来るように対応している。又各居室の入り口には、目安になる物を付け迷わないように工夫している。 | | |